



美山中学校だより



それぞれの目標に向けて頑張っています

美しかった木々の紅葉も終盤を迎え、いよいよ冬タイヤの準備が気になる頃となりました。皆様もそれぞれの冬支度を進められていることと思います。日頃は、本校の教育活動に、格別のご理解とご支援をいただき誠にありがとうございます。



さて、2学期も残すところあと一月となりました。1・2年生は部活動の口丹新人大会、地域の皆様にご支援いただき実施した「ふるさと学習」や「職場体験学習」を終え、部活動や学習でじっくりと力を高め蓄える時期を過ごしています。

一方、3年生は進路に係る最終面談を終え、目標を確定して希望進路の実現に向けて、努力する日々です。文化祭を終えてからは、7校時の学習に取り組んでいます。また、かつて美山中学校でも勤務されていた地域の先生方のお世話になり、土曜学習講座にも取り組んでいます。「受験は団体戦」というキャッチフレーズのもと、互いに刺激し合い励まし合いながら頑張っています。今は、現在の期末テストに向け全学年が家庭学習に励んでいます。定期テストや入試のプレッシャーを感じて過ごす子どもたちに、どうかエールを送ってやってください。



京都府青少年育成協会主催 「少年の主張京都府大会」 入選(本大会発表)作品

「自分の良さ」

3年 石田 美羽子

私は自分に自信がないせいで、考えを口に出したり、行動に移したりできず、いつも後悔ばかりしています。

2018年11月に満13歳～29歳までの男女を対象に「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」が実施されました。自分自身のイメージについて「そう思う・どちらかといえばそう思う」と回答した日本の若者は、「自分自身に満足している」が約45パーセント、「自分には長所があると感じている」が約62パーセントでした。これは同時に実施した他の先進国の調査と比較して、最も低い値であり、日本の若者の自己肯定感が他の国の若者のそれよりも低いということがわかります。



日本には、控えめで慎ましいことを美德とする文化があります。人から褒められた時、「いえいえ、それほどでもありません。」とか「たいしたことではありません。」という返答をすることが多いのが、その一例です。このように、控えめに振る舞い、自分の功績や能力をおご

らない態度を「謙遜」と言います。必要以上に自分を評価することを避け、へりくだった態度をとることで相手への敬意を表し、高慢な印象を与えたり、嫌みに思われたりしないための日本人の生き方です。



謙遜を美德とする日本の文化のために自己肯定感が低くなっていると言い切ることはできませんが、自分の良いところをはっきりと良いと言わない考え方や姿勢が「自己肯定感が低く消極的だ。」と言われる日本の若者の欠点と少なからず関係しているのではないかと私は思います。



では、自己肯定感とは何なのでしょう。私は長距離が得意で、駅伝部に所属しています。練習では、自分に合ったペースで走ることを求められるのですが、実際は友達と同じペースで走っています。これは「自分だけがペースを上げて失速するのが怖い。」と失敗することを恐れ、自分の限界に挑戦できない私自身の心の弱さが原因です。長距離が得意なはずなのに、周りに合わせて何となくその場をやり過ごすという消極的な姿勢になってしまうのは、自分のペースで走りきることに、長距離が得意だという自分の気持ちに自信が持てないからです。結局、自己肯定感が持てないということは、自分に自信が持てないということで、それが消極的な姿勢につながってしまうのではないのでしょうか。「誰かに考えを否定されたら…」とか「賛同してくれる人がいなかったら…」という思いに囚われ、「人前で失敗したくない。人前で恥をかきたくない。」とそんなことばかりを考えていては、自分の考えを押し殺し、誰かの真似をすることしかできなくなってしまいます。

欅坂46というアイドルグループの『サイレントマジョリティ』という曲に「君は君らしく生きていく自由があるんだ」という歌詞があります。周囲に流されてしまいがちな私に、自分の道を突き進むことの大切さを訴え、自分のやり方で進めと、背中を後押ししてくれるようなこの曲が、私は大好きです。この歌を聴くたびに自分の道を大切にしよう、自分に自信を持って生きていこうと強く感じます。

謙遜が自己肯定感の低下につながってしまうのは、いつの間にか自己卑下に変わってしまっているからだと思います。表向きは、「相手を敬う控え目な言葉」を口にしながら、否定的な言葉を使うことで、自分自身をも否定してしまっているのです。自己卑下は、自分への自信を失い、自分の考えを行動に移せないことにつながります。本当の謙遜には、相手には控え目に振る舞いながら、心の中では、自分のしたことや能力に自信を持ち、誇りに思っている、そんな強い心があるはずです。



これからは自分に自信を持ち、褒められた時、否定的な言葉で謙遜するのではなく、たまには「ありがとう」と、そのまま謙虚に受け入れていこうと思います。皆さんも自分の良さを素直に感じてみてはいかがでしょうか。



口丹新人大会入賞結果

剣道部	団体	3位
バレーボール部		3位

(近畿中学生選抜優勝大会 京都府予選会出場権獲得)

